

(様式2)

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

愛媛県立松山盲学校

学校番号(48)

評 価 実 施 日		令 和 6 年 2 月 7 日 (水)	
委 員	氏 名	所 属 等	備 考
	越智 富夫	越智東洋はり院 院長	
	小林 修	愛媛大学国際連携推進機構 教授	
	石丸 雄一	愛媛県視聴覚福祉センター 支援課課長	
	羽藤 大介	社会福祉法人松山共生会 コミュニティハウスし おみ施設長	
	西尾 光三	松山市清水公民館 八区分館長	
	松浦 清美	愛媛県立松山盲学校 P T A 会長	

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
1 今年度の最終評価について (1) 生徒数の確保について 教育相談を保護者等から受けた場合の対応を考え、教育相談を通じた入学者数増加を検討してほしい。 (2) 専門性の維持(点字指導等)について 現在行われている点字指導等は非常に専門性が高いと感じる。この専門性が今後も維持・向上するよう取り組んでほしい。	・今年度は医療機関との連携を強化した結果、眼科医から本校の教育相談につながったケースがある。今後も他機関との連携を深め、早期からの教育相談の開始や県内の視覚障がい者の把握に努める。 ・昨年度までは進学受験を目指すケースや、ブレイルメモ(電子機器によるデータでの読み書き)を主とする中学部・高等部の生徒への応用的な取組が中心であった。今年度から小学部に点字使用の児童が入学して初期指導を実践する機会を得たり、点字支援の必要な保護者への対応を行うケースが生じたりしたので、教職員の点字の更なるスキルが重要となっている。また、児童生徒、教職員の基礎的な点字の取組として、毎月の点字テストや毎週の朝点字を継続している。このような各教科・各課における点字の配付物等の作成は、点字支援委員会という委員会が支援している。今後も点字支援委員会を中心となり、本校の点字の取組を維持・推進していきたい。

(3) 教職員の連携について

自己評価アンケートでは教職員の連携は向上しているが、他の項目に比較して低い結果となった。今後、さらなる対応が望まれる。

・今年度、2名の児童が小学部に入学及び転入学をしたことで小学部が再開され、既設の中学部及び高等部と連携して学校行事等に取り組むことが増え、結果としてアンケートの数値は昨年度よりも上昇した。これに満足することなく、チーム盲学校としてさらに連携を深め、お互いに学び合い、また、先輩方をモデルとする学校づくりを行い、充実に努めていきたい。

(4) 盲学校のイメージ向上について
盲学校に対するイメージ

は、いろいろな取組を通して格段に向上していると感じている。今後も「いい学校づくり」に対する取り組みを続けてほしい。

・県内唯一の視覚支援学校として、本校が担う役割は大きい。今年度は、眼科医との連携、市町の関係機関や弱視学級への訪問、マスコミへの積極的な広報活動を行い、本校のセンター的機能の紹介に努めてきた。学校案内を一新する準備を進めており、今後も理解啓発活動を積極的に推進する。